

指導プラン 在籍学級の担任による学活指導①（1日目から4日目）

学習する内容	日本語表現・語彙・文字表記	
<p>○外国人の子どもを温かく迎えるために、自分たちにできることを話し合う。</p> <p>○簡単な挨拶表現を覚える。</p>	<p>○おはようございます。ありがとうございます。さようなら。（外国人の子どもの母国語）</p>	
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
<p>1 写真を提示する。</p>	<p>在籍学級の子どもに、外国人の子どもの以前に住んでいた家、学校、町並みなどの写真や映像を見せる。</p> <p>※学校に受け入れる際、外国人の子どもの保護者とコミュニケーションをとり、在籍学級の子どもに見せる適当な写真（できれば家族が入っているもの）を用意する。その国の景勝地を背景に撮影した写真などもよい。</p> <p>（例）</p> <p>リオデジャネイロの観光地等を背景にした家族写真、以前住んでいた家での家族写真</p> <p>T：この写真をみて、何か気が付いたことはありますか。</p> <p>C：わたしたちの住んでいる所と違うね。外国みたいだね。</p>	<p>外国人の子どもの写っている写真など。見やすいように拡大コピーしておくともよい。</p>
<p>2 転入生の説明をする。</p>	<p>外国人の子どもが転入することを子どもに伝える。子どもの名前や出身国名を簡単に紹介し、子どものつづやきを取り上げる。</p> <p>T：この学級に外国人の子どもが転入してきます。名前はマルコスさんです。ブラジル（国名）から来ました。ブラジル（国名）は、サッカーで有名ですね。</p> <p>C：仲良くなれるかな。日本語で話せるのかな。心配だな。</p> <p>C：きっと、マルコスさんも心配（不安）なことがあると思う。</p> <p>T：日本語は話せません。日本のこともよく分かっていません。きっと不安な気持ちでいっぱいです。これから、日本語を勉強していきます。この学級に来たときには、いろいろ助けてあげられるとよいですね。</p> <p>C：どんな子なのか楽しみだな。早く仲良くなりたいな。</p> <p>C：何語を話すのかな？英語かな？</p> <p>※転入してくる外国人の子どもの子どもの日本語の会話力について伝える。また、日本の生活習慣などもよく分かっていないことを伝える。</p>	<p>※辞書やインターネットで母語の挨拶を試しておく。</p>

<p>3 話し合い活動</p> <p>(1) 挨拶の言葉</p> <p>(2) コミュニケーションを深める遊び</p> <p>(3) 接し方</p>	<p>子どもたちの不安や期待感を集約し、話し合いを進める。外国人の子どもを温かく迎えるために、できそうなことを考えさせる。</p> <p>T: マルコスさんと仲良くなるためには、どうしたらよいでしょうか。</p> <p>C: マルコスさんの国の言葉で挨拶をする。</p> <p>C: みんなで差んだり、歌ったりすればいい。</p> <p>挨拶の言葉を教える。また、身振りについてふれる。</p> <p>① おはようございます。 ② ありがとうございます。</p> <p>③ さようなら。 ④ こんにちは。</p> <p>※可能であれば、外国人相談員に協力してもらう。</p> <p>言葉が分からなくてもできる遊びを考えさせる。</p> <p>C: どんな遊びができそうかな。どんなルールがいいのかな。</p> <p>C: 鬼ごっこやじゃんけん遊びならできそうだよ。</p> <p>C: お話ができないから、簡単なルールにしよう。</p> <p>※色鬼、手つなぎ鬼、へびじゃんけんなどが考えられる。</p> <p>外国人の子どもへの接し方について考えさせ、温かく受け入れよとする気持ちを高めるようにする。</p> <p>もし、自分が言葉の分からない国の学校に転校したらどうだろうと考えさせる。</p> <p>C: 日本語が分からないマルコスさんと遊ぶとき、どんなことに気を付ければいいのか。</p> <p>C: 危ない時だけ、「だめ」と言う。</p> <p>C: 影かせないように、名前を呼んでから、話しかけたり、手をつないだり、肩に触れたりしよう。</p> <p>C: 話すときには、しっかり顔を見て、笑顔で話そう。</p>	<p>イラストを用意する。</p> <p>外国人相談員等による挨拶の指導。</p>
<p>4 担任の話</p>	<p>外国人の子どもの立場になって、話し合いができたことを価値付ける。挨拶の練習をしたり、外国人の子どもの母国について調べたりすることを勧め、授業を終了する。</p> <p>T: マルコスさんの気持ちを考えた話し合いができていました。今度、マルコスさんが、自己紹介をします。そのときは、皆さんが気持ちのよい挨拶をするとマルコスさんも安心します。話すときには、顔を見ながら、ゆっくり聞こえる声で話しましょう。</p> <p>※在籍学級の担任による学級活動①の後、第4日目の午後や第5日目に、外国人の子どもに在籍学級で挨拶をさせる。第6日目から第10日目まで、国際教室（取り出し教室）に、6、7人のグループごと交代で交流給食に行くことも在籍学級の子どもに伝える。</p>	

指導プラン 在籍学級の担任による学級活動②（11日目第5校時以降に行う）

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
<p>○互いの名前と顔を覚える。</p> <p>○ゲームや外遊び等を通じて、外国人の子どもの交流を深めたり、互いのよさを認め合ったりする。</p>		<p>○基本的な挨拶（こんにちは、さようなら など）</p> <p>○数字（1～5程度）</p>
流れ	活 動	準備物等
1 挨拶する。	<p>「こんにちは」の挨拶をそれぞれの国の言葉で言い、挨拶を交す。</p> <p>※気持ちや和むような雰囲気をつくる。その子どもを歓迎するような掲示物を用意する等。</p> <p>(例) 笑顔で仲良くしているような絵。「ようこそ」「歓迎します。」「こんにちは。」のような言葉を日本語とその子どもの国の言葉で書くこともよい。</p> <p>T：○○○○○（「こんにちは」に当たる外国人の子どもの言葉）</p> <p>C：○○○○○（「こんにちは」に当たる外国人の子どもの言葉）</p> <p>T：こんにちは</p> <p>C：こんにちは</p>	
2 歌「小さな世界」を歌う。	<p>歌詞に込められた願いを考えながら合唱する。</p> <p>※外国人の子どもはハミングでもよい。歌詞内容が難しければ、もう少し簡単な歌に変更してもよい。「森のくまさん」「大きな栗の木の下で」など、同じ歌詞を繰り返して続ける歌もよい。</p> <p>子どもに本時のねらいや活動内容を説明し、見通しを持って活動できるようにする。</p>	<p>できれば、歌詞(楽譜)には、外国人相談員等による翻訳があるとよい。</p>
3 本時のねらいを説明する。	<p>T：今日のめあてを言います。</p> <p>マルコスさんに自分の名前と顔を覚えてもらいましょう。マルコスさんは、皆さんの名前と顔を覚えましょう。</p> <p>そして、皆さんが考えたゲームをして、マルコスさんと仲良くなりましょう。</p> <p>外国人の子どもは簡単な自己紹介をする。</p> <p>(例)</p>	
4 外国人の子どもが自己紹介をする。	<p>C：僕は、マルコスです。サッカーが好きです。よろしくお願ひします。</p> <p>※2日目までに「わたし(僕)は、○○○○です。○○が好きです。よろしくお願ひします。」という表現を学習している。</p>	

<p>5 室内ゲームをする。</p> <p>(1) じゃんけん挨拶</p> <p>(2) 並びかえゲーム</p> <p>(3) 人数集めゲーム</p>	<p>ゲームを通して、多くの友達と触れ合い心を開く。</p> <p>(ルール)</p> <p>ペアをつくり、「こんにちは、〇〇です。よろしくお願いします。」と挨拶と握手を交わしてからじゃんけんをする。その後、新しいペアをつくり、5回勝つまで続ける。</p> <p>※人数により回数等、条件設定を変える。</p> <p>※はじめは、失敗しても気にしないで継続させ、全員がゲームの仕方に慣れるようにする。慣れてきたら、ルールを少しずつ変えていく。子どもたちに新たなルールを考えさせたい。</p> <p>(例) パースデーチェーン</p> <p>会話をせずに、ジェスチャー等の身体表現を用いて、誕生日ごとに集まる。さらに、生まれた日の早い順に並び、クラス全員で並ぶ。最後に、全員で誕生日を確認する。</p> <p>※日付や誕生日を尋ねる言い方は、国際教室（取り出し教室）で学習したばかりなので、パースデーチェーンは難しい場合がある。子どもの実態に応じて行う。</p> <p>手拍子の数と同じ人数で集まり、自己紹介や握手等を交わす。</p> <p>(例)</p> <p>T：(ルールを説明した後)ルール確認の練習をします。1（手拍子）、2（手拍子）2（指で2を示す。）。2人。（と言い、2人組を作って座らせる。）</p> <p>本番です。1（手拍子）、2（手拍子）3（手拍子）。3（指で3を示す。）。3人。（と言う。）</p> <p>※手拍子をする際、外国人の子どもの母国語で数字を読み上げる活動も入れるとよい。</p> <p>学級活動①で考えたコミュニケーションを深める遊びを行う。</p>	
<p>6 外遊び</p>	<p>はじめに、必ずルール確認をする。</p> <p>※特に、外国人の子どもがルールを理解できているか必ず確認する。進行の様子を見ながら、ルールを柔軟に変更する。</p> <p>(例) へびじゃんけん</p> <p>C：じゃんけんの前に、必ず握手をして名前を言うことにしよう。</p> <p>(例) 手つなぎおに</p> <p>C：危ない時にだけ、「だめ」と言うんだったね。</p>	
<p>7 振り返り</p>	<p>※子どものよいあらわれを価値付けする。</p> <p>子どもに、マルコスさんや自分のよかったところを発表させる。</p> <p>C：鬼ごっこでは、マルコスさんが笑顔で喜んでくれてうれしかった。</p>	

	<p>○：マルコスさんと仲良くなれたし、学級のみんなども今まで以上に仲良くなれたよ。</p> <p>○：マルコスさんのことを、もっとよく知りたいな。</p> <p>※ 大きな身振りや豊かな表情で外国人の子どもと積極的に関わったことを価値付ける。</p> <p>※ 外国人の子どもにも感想を発表させたいが、実態に応じて配慮する。「ありがとう。」という言葉は学習しているので、最後に言うように促してもよい。</p>	
--	---	--

指導プラン 在籍学級の担任による学級活動③（20日目頃に行う。）

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
<p>○外国人の子どもの出身国の文化等について学ぶことを通し、外国人の子どもについての理解を深める。</p> <p>○五感を生かして、外国の文化等を体験的に理解する。</p>		<p>○基本的な挨拶（こんにちは、さようなら など）</p> <p>○身近なものの名前（椅子、机、鉛筆など）</p>
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	「こんにちは」を両国の言葉で言い、挨拶を交わさせる。 気持ちが和むような雰囲気をつくる。	外国人相談員等による通訳。 事前にクラスの保護者へ、参加を呼び掛ける。
2 歌「小さな世界」を歌う。	歌詞に込められた願いを考えながら合唱させる。(ハミング可)	「小さな世界」の楽譜
3 本時のねらい	子どもに本時のねらいを説明し、外国人の子どもの保護者を紹介する。 T：いつもは、マルコスさんに日本語や日本のことを教えることが多いのですが、今日は、マルコスさんに、マルコスさんの出身国のことを教えてもらいましょう。 マルコスさんのお母さん（お父さん）にもお願いして来ていただきました。	
4 出身国の紹介 (1) 遊びや生活	外国人の子どもが出身国での遊びや生活ぶりについて、イラストや写真を用いて説明する。簡単な説明でよい。 ※「在籍学級の担任による学級活動①」で使用した、外国人の子どもの小さい頃の写真を使って説明するのもよい。 手や数字を表す方法は国によって異なるので、その説明をしてもよい。 (例1) フィリピンのお数え方 両手を開いて見せて10、その手を裏返して20、さらに裏返し元に戻すと30、繰り返して40、50、60と教えていく。	写真、イラスト等

	<p>(例2) ミャンマーのじゃんけんのやり方 日本とは違ってジェスチャーで、虎（ジャー）と、上官（ポー）と、銃（タア ヌア）で勝負する。虎は上官に勝ち、上官は銃に勝ち、銃は虎に勝つ。かけ声は「ポー、ジャー、タア ヌア、チャイ タア ゴウ ニャニャ ビェ。（上官、虎、銃、好きなものを出せ！という意味）」と言う。</p>	
(2) 小学校の様子	<p>外国人の子どもの保護者や外国人相談員等に日本の小学校と比較しながら、出身国の小学校について話してもらおう。 ※子どもの母国の学校等の写真があるとよい。会話の中で、身近な物の名前を教えてもよい。</p>	
(3) 質問	<p>子どもと保護者に、(1)、(2)、または、それ以外について質問をさせ、外国人の子どもに答えさせる。相談員等が支援してもよい。</p>	
5 振り返り	<p>子どもたちに、本時の感想を発表させる。 C：日本と違う食べ物や楽器があることが分かった。 C：〇〇〇〇さんが暮らしてきた国のよいところが、いっぱい分かったよ。日本の生活にも早く慣れてほしいな。 C：みんなちがって、みんないいことが分かったよ。 ※振り返りを通して、いろいろな違いがあることのよさに気付かせたい。</p>	

今日の活動・指導のヒント

(1) 「4 出身国の紹介」では、国際機関日本アセアンセンターのホームページ「アセアンキッズセンター」が参考になる。（東南アジア諸国の食べ物、生き物、服装、子どもたちの遊びなどが紹介されている。）

アドレス <http://old.asean.or.jp/kids/index.html>

(2) 「4 出身国の紹介」では、外国人の子どもの保護者に、その子どもが小さいときによく聞かせていた話（その国の子どもならよく聞かされる話、英雄譚等）を話してもらい、その国の文化や考え方に触れることができるとよい。その話の後に、今度は、日本では、「桃太郎」「浦島太郎」「かぐや姫」などの話を小さい子どもに読み聞かせをすることがあるとあって紹介すると相互交流になる。